

乳房炎部会から

～第13回乳房炎防除対策 研究会に参加して～



2006年2月16日小雪の舞う札幌、外の気温は低い一日でしたが、北海道厚生年金会館の熱気はさっぱり雪まつりの残雪をも融かすほどの熱気に包まれていました。当日当会場では、有名人のコンサートではなく、第13回乳房炎防除対策研究会－コスト削減・良質乳生産をめざして－が開かれていました。この研究会は、酪農業に関わっている生産者や農協職員、獣医師、普及センターやメーカーなど多くの関係者が全道各地から集まり、乳房炎防除を目的として開催され、今年で第13回目を迎えています。今回は午前中に基調講演1題、午後から事例発表1題、設立50周年記念特別講演として乳質改善大賞者の最優秀賞6名の方の発表がありました。

基調講演

基調講演としてオランダの酪農家Maalderink夫妻から、ご自身が経営されている牧場のこれまで、現在そして未来についての講演がありました。乳牛の生産能力を限界まで追い込まないように健康管理に留意し、疾病予防にとっても気を配った飼養を心がけていらっしゃいました。生産する生乳に関しては、細心の注意と管理法を厳守され、最高品質の製品を製造できるようにと常日頃から心がけているとのことでした。ご夫妻は「成功は、私たちが酪農と牛乳にかける情熱によって得られるものである。」と明言されていました。酪農の成功のキーワードの一つである「安全で責任を持って保証できる生産物を消費者へ届ける」ということは、オランダも日本も同じであることを実感しました。



事例発表

事例発表として、当管内のJA摩周湖における乳質改善への取り組みについての発表がありました。乳質改善に関して、牛群および個体の乳量・乳質のデータ把握の一つとなる乳検への加入促進、現地へ出向いての搾乳指導、NOSAIによる細菌学的検査、またその後のJA担当者による数回にわたるフォローなどの報告がありました。JA摩周湖が中心となって、乳検、酪農振興会連合会、NOSAI弟子屈支所、雪印乳業、機器メーカーなど各分野の専門家がうまく連携し、体細胞数や生菌数で大きく改善することができた報告でした。

設立50周年記念特別講演

北海道乳質改善協議会が設立50周年を迎え、地区乳質改善協議会から推薦に基づき、優れた生産技術で良質な生乳を継続的に生産し、経営的にも優秀かつ模範的な22農場に、北海道乳質改善大賞が贈られました。その中でも、最優秀賞6題の講演がありました。鶴居村の尾田猛牧場をはじめとして、どの生産者の方々も、「特に変わったことはしていません。いつも通りのことをしているだけです。」と述べられていました。しかし、共通して言えることは、牛の快適性を最優先し、その結果として疾病が低減し、高品質乳の生産へ結びついているようです。「酪農家の使命は、消費者の安全・安心に応えるためにも良質乳を生産・出荷することです。」と力強く語られていた講演者の方々の顔はとても素晴らしいものでした。

生産調整によりコスト低減が課題となってきています。生乳を一滴でも無駄にしないように、良質の生乳を生産するように心がけ、個体乳量の増加を図ることもコスト削減の一つの方法だと思います。安全で美味しい牛乳を消費者に供給できるように、力を合わせて頑張っていきましょう。

標茶支所 虹別家畜診療課 弘中 俊之

